

「宣教者の姿」

(マルコによる福音書 6:7-13)

主イエスは弟子たちを宣教に派遣し、弟子の教育は新たな段階に入ります。

弟子たちに出された旅の条件は非常に厳しいものでした。パンやお金、衣類は最小限。履物と杖以外は持って行ってはならない。舗装されていない石ころだらけの道ですから、履物は不可欠です。杖はさそりや獣などの危険から身を護るために、また長距離歩くためにも必要です。袋を持って行ってはならない、とありますが、これは献金、寄付を入れる袋です。寄付が禁じられていたわけではありませんが、これを持ち歩くと、もしかしたら必要以上に溜め込んで、安心をお金で買ってしまいかも知れません。必要なものは、パンも衣類も、お金も、神が与えてくださる。このことを信じるか、ということが試されています。宣教する者は、物ではなく、神に信頼し、身軽で自由であること。ただ神の国の福音を伝えることに専念すること。それが求められています。

では、どのように福音を伝えるかと言うと、宣教者のその姿、神に信頼している姿そのものこそがしるしとなるのです。つまり何も持たない 12 人の姿そのものによって、人びとは神の国の到来の福音を知るのです。神の恵みが彼らを通して表されるからです。

この厳しい歩みは一人でできるものではありません。そのために、主イエスは弟子たちを二人組みで派遣しました。互いに励まし合い、支え合うから、わたしたちは福音を自分の姿によって人びとに知らせることができます。